

会 議 録	
会 議 名	令和4年度 第1回真庭市子ども・子育て会議
日 時	令和4年8月17日(水) 19:00~20:50
場 所	真庭市役所 本庁舎 2階大会議室
出 席 者	<p><出席委員> 10名 池田委員、内田委員、江口委員、小谷委員、佐藤委員、庄司委員、二若委員、前田委員、松尾委員、安田委員</p> <p><欠席委員> 4名 川崎委員、杉本委員、高田委員、額田委員</p> <p><事務局> 2名 健康福祉部子育て支援課 行田課長 健康福祉部子育て支援課 硯参事</p>
傍 聴 者 数	傍聴者 2人
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 委員自己紹介</p> <p>4 子ども・子育て会議について</p> <p>5 認定こども園設置・運営事業者の選定結果について(報告)</p> <p>6 議題 (1) 久世地域における園整備のあり方について</p> <p>7 その他 (1) 真庭市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて て (2) 今後の進め方について</p> <p>8 閉 会</p>

1 開 会

(事務局 行田課長)

定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度第1回真庭市子ども・子育て会議を開催いたします。

本日は、遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。私は、本日進行を務めさせていただきます子育て支援課長の行田と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

はじめに、お手元の資料等を確認させていただきます。次第、配席表、資料が1から8まで、参考資料としまして「真庭市子ども・子育て支援施設整備計画」、「真庭市子ども・子育て支援事業計画」、「幼児教育施設整備の方向性に係る答申書」と「真庭市幼児教育施設の充実に向けた基本方針」をご用意しております。また、今会議から新たにこの会議の委員になられた方々には、委嘱状を置かせていただいております。

足りないものはございませんでしょうか。不足がある場合は、事務局にお申し付けください。

本日の会議の終了時刻は、午後8時30分を目安としておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして佐藤会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長挨拶

(佐藤会長)

真庭市の子ども子育てのための重要な会議であると考えています。何かを決定するということではなく、皆様それぞれのお立場から、また地域の意見もお聞きできればと思いますのでよろしくお願いいたします。

3 委員自己紹介

(事務局 行田課長)

本日は今年度第1回目の会議になり、また、お手元の資料1にありますように、前任の方と交代という形で、今回、9名の方々が新しく委員になられていますので、改めて全委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。お手元の資料の配席図の順にお願いしたいと思います。

それでは、池田委員からよろしくお願いいたします。

～自己紹介終了～

(事務局 行田課長)

ありがとうございました。

本日は、委員14名中10名の方にご出席いただいております。過半数に達しておりますので真庭市子ども・子育て会議条例の第5条第2項の規定により会議は成立しておりますことをご報告いたします。

4 子ども・子育て会議について

(事務局 行田課長)

先ほど申しましたとおり、新たに会議委員になられた方がいらっしゃいますので、子ども・子育て会議がどういった会議であるのかにつきまして、担当者より改めてご説明させていただきます。

(事務局 硯参事)

～資料2・3により説明。～

5 認定こども園設置・運営事業者の選定結果について（報告）

(事務局 行田課長)

次に、前年度、民間参入の是非を含めた久世地域における幼児教育施設の在り方についてご審議いただきました件につきまして、選定を行った結果を、担当者よりご報告させていただきます。

(事務局 硯参事)

～資料4により説明。～

(事務局 行田課長)

ご報告といった形で、皆様にご説明をさせていただきましたが、この件に関しましてご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

～特になし～

(事務局 行田課長)

それでは、会議規則により、以降の進行は佐藤会長にお願いいたします。

6 議 題

(佐藤会長)

「久世地域における園整備のあり方について」という議題ですが、今回は、第1回目ということ、また、新しく委員になられた方も大勢のため、まずは、真庭市の現状や課題がどうなっているのかなど、ご理解いただき、その上で、本議題にあります久世地域の現状や課題はどうなのか、今後、どうあるべきなのかを考えていく必要があると思います。

本日は、まず私たちの理解を深めるということに主眼を置いて進めたいと思

います。

後ほど皆様のご意見、ご質問等をいただくわけでございますけれども、限られた時間の中で全ての質疑応答、あるいは意見をくみ尽くすというような段階にはまだないと思いますので、そのあたりについてご了解いただきまして、本日足りない分は、次回、あるいはまた会議の終わった後、事務局との間でやりとり等を行うことによって補っていければと思います。

それでは、事務局より説明をお願いします。

(事務局 硯参事)

～資料5・6・7・8により説明。～

(佐藤会長)

ただいま事務局から説明のありました件につきまして、委員皆様からご意見、ご質問等をいただきたいと思います。

なお、今会議は、何かを決定する場ではなく、様々な観点をお持ちの方々からご自由にご発言いただける場であると思っておりますので、それぞれのお立場から、また、個々人としてのご意見でも構いませんので、ご自由にご発言いただければと思います。

～委員からの意見・質問等～

(池田委員)

説明を聞いて、色々知ることができました。ここまで、老朽化を放っておいたのは何故なのか、学校であれば耐震化を言われるように、様々な問題があったんじゃないかと思って聞いていました。老朽化を放っておいた理由が例えば仮に市の財政的なものというのであれば、説明のあった、子どもへの思いと矛盾しか感じないし、財政うんぬんというのははっきり言って理由にならないと思います。

あと、病児保育の現状を教えてもらいたい。

(事務局 行田課長)

数年前から、久世地域では、建て替えや整備統合の議論があり、繰り返しその話が検討しなおされた経緯があります。他園の整備も進む中、結果として久世がこの状態に至っているというのは真摯に受け止めないといけないと思っています。財政的な事情もないわけではありませんが、「子どもが真ん中」という思いを持って喫緊の課題として久世地域のこういった現状を打開したいということで、皆様のご意見を踏まえながら整備を進めていきたいと思っています。

病児保育についてですが、医療機関の協力を得なければ実現できない状況で、現在はみんなのクリニック1か所です。今年度、医療法人美甘会、勝山病院が病児保育事業に取り組んでいただけるとい話がありまして、年度末に向けて準備を進めてもらっています。

久世地域、勝山地域ということで市内全域をカバーするということではありませんが、医師会等に引き続きご協力の呼びかけをさせていただきながら、場所やスタッフといった病院側の事情もありますが、連携して、受け皿が少しでも増えるようにと考えています。

(前田委員)

久世地域の園整備の在り方は、去年から同じ話を聞いているが、ではこの築50年はいつから検査されていたかと問うと、去年の答えは今からですだった。それと同時に私立の園の話が出てきて、2つの話が同時に進んでいるような気がしたまま今に至っています。クレドさんは、北町公園を提案されているが、北町公園のどこからどこまでなのか、以前から老朽化の心配をしている久世保育園が公園の隣にあり、おそらく久世保育園の隣に考えられているんだろうと思います。この先久世保育園はどうなっていくのか。久世保育園の代わりではないが、たまたま横に私営ができるからそちらにどうですかということなのか。久世地域の園の方の話を聞くと、もちろん私立の充実したサービスに期待されている方はとても多いと思います。でもそれと同時に、公営の在り方というものも、おそらく保護者の方は思いが強いのではないかと思います。よくなれば、よくなるに越したことはないが、結果、子どもたちや保護者、地域にとってよくなるのであればいいんですが、私立あつての話の進み方にも思える。久世保育園を利用している保護者からの要望が多いことが提案理由にあったが、建ててほしいのは、民間か、公立かもあると思う。北町公園内に私立ができると聞くと、久世保育園はなくなるんだな、と私は思ってしまう。他にも第二保育園は数年先に同じような状況になってくる。そこに対しては、真庭市は何か動いていたりするのか、その辺もあると思う。この会議が去年から始まったのも関連があることなのかなどいろいろ思うことがある。

(事務局 行田課長)

説明資料の5に真庭市子ども子育て支援施設整備計画の抜粋がありますが、公営及び民営の役割といったことで位置づけを従来からさせていただいています。昨年度、具体的に民間からの提案もあったわけですが、民間の担っただけ役割より別に、真庭市では今まで公営で旧町村で運営されてこられた園というのが大半ですので、今後も中心となるのは公立の園の役割だと思ってい

ます。その上で地域のバランスを考えて整備が必要ですが、久世地域であれば今であってもある程度人口も集中している地域ですので、園の数も多い状況です。ただ、民間の参入というのは、前向きな話を昨年度答申としてはいただいたのかなと思っており、真庭市としての理想的な条件を付して募集をさせていただいたということだと思っています。

民間の参入は、その役割としても先ほどもおっしゃっていただいたように、期待される場所も保護者としては色々とお考えがあると思いますが、民間によって久世地域の問題が全て解決するわけではないと思っており、公立の5園の現状は、大きな課題だと思っています。保護者の皆さんの意見やこういった場で参考となるお話を聞かせていただいたりして、今ある公営の施設の在り方は早急に考えていかなければならないと思います。先ほど、第二保育園の話もされましたが、老朽化が激しいと思います。どういったバランスで整備を進めていくか、いずれ整備をどこかで何とかしなくてはいけないと思っていますので、そういったところもご意見をお聞かせいただけたらと思っています。今回久世地域という範囲でこども園を募集し、一つの事業所から応募があり、具体的な提案の場所が北町公園だったということになります。保護者からの意見が、必ずしも民間の園ということではなかったかもしれませんが、場所の考え方としては、事業者はこの会議などを参考にされ、提案をされたものと思っています。

(佐藤会長)

補足ですが、令和3年6月に真庭市の子ども子育て会議が発足したということに関して、その当時、私が県の子ども子育て会議の会長をさせていただいておりました。毎回どの地域で子ども子育て会議が立ち上がっていないかという状況が情報共有されるので、そういった意味で各市町村に子ども・子育て会議を立ち上げていただくことを進めていましたので、それを受けてということもありましたし、県からの働きかけもあったと思います。

(松尾委員)

久世こども園、米来こども園の0歳児から2歳児は募集していないのでしょうか。

(事務局 行田課長)

受け入れはしていません。

(松尾委員)

0～2歳児のニーズは高いと言われているのに、理由があるのであれば何故受け入れをしていないのか。受け入れをしていくということももしあれば、需要も出てくるのではないかと思います。真庭市の人口推計がどんどん下がっている。これについては、何故下がっているのか。若い女性が真庭に定住しないというのは、ここだけの話ではないと思うが、北房地域だけでも減っています。個人の意見としては、住みにくい地域になってきているのではないかと。だから減っている。こども園、小学校、放課後児童クラブ、中学校が充実していれば、子どもを育てたいと、親は考えると思います。でもそのどこかが欠けると違うところを選ぶ。働く場所もそうだが、都会に行くとニーズが、求めるものがたくさんあるということで流れていくのではないか。そのあたりも全部含めて何とかしていかないと、市の方針で郷育などやっているが、いざ生活となると、病気で、とかいろんなことで園の受け入れとかダメですとなると、どんどん流れていく。

公営のこども園でも、0～2歳児の受け入れがもっとあれば利用率が上がると思います。

(事務局 行田課長)

久世こども園、米来こども園は成り立ちの中で、もともと幼稚園だった施設で、そもそもが0～2歳の受け入れがなく、施設的にも受け入れられない状況です。ただ、こども園化する際に0～2歳児を受け入れるための改修も議論があったと聞いていますが、実現できていないということになります。物理的に、受け入れられる施設になっていないということでご理解いただけたらと思います。

少子化対策、人口減少対策は子育て支援課だけでなく、我々もその一翼を担いながら、市全体で大きなテーマとして、考えなければならぬ課題と受け止めています。その中で、例えば、障がいのあるお子さんの受け入れなどは、限られた園ですが、看護師の資格を持った方にも携わっていただくことができているので、できる限り今後も体制づくりには努力していきたいと思っています。

(内田委員)

老朽化のことで、川上、蒜山の方は積雪が多く、建築年数だけでは測れないところも配慮していただけたらと思います。

(事務局 行田課長)

資料の 21 ページにあるように、40 年代の園が 6 園あり、その中でも喫緊の課題ということで、久世地域をと考えていますが、市内で考えていかなければならない地域はまだあると認識しています。久世地域の議論を落ち着かせて、久世地域を具体的に実行に移しつつ、他の地域についてもどういった園の在り方、整備がふさわしいかということも地域ごとの人口推移なども踏まえながら引き続きこの会議の場でご意見をいただければと思っています。

(小谷委員)

資料 22 ページのニーズに土日祝日に利用したいとあるが、私も共働きで、連続勤務が続いており、実家の父母は離れているし、夫の父母は都合で見えないとかいろいろある中で、子どもを預けたいときに預けられるような状況にいずれはなるのかと期待します。蒜山は繁忙期で、観光業は土日は忙しいので、観光業のママからしたら繁忙期はお弁当を作ったりするのが大変なので、毎週お弁当ではなく給食が出てほしい。そういうこともいずれ考えてもらえるような時期が来るのでしょうか。

(事務局 行田課長)

地域の特性を踏まえたお話だと思います。一定のニーズとして土日の受入れの要望があるというのは、当然のことだと思います。いずれなる、ならないの即答はこの場でできにくいですが、そういったニーズがある中で、土曜日の受け入れはさせてもらっていますが日曜日までは対応できておりませんので、地域の実情に合わせてどのような対応ができるか、現場での保育士の確保ですとかそういったこともありますので、今後の課題かと思っています。お約束はできませんがそういったご意見をお聞かせいただいたということで今後努めていきたいと思っています。

(池田委員)

こうやって話している間にも子どもたちは大きくなっています。検討するばかりなら、時間の無駄。建て替えるなら建て替える、取り壊すなら、取り壊す、現状維持なら現状維持で、方向性をまず決めてからでないとい先に進まないのとにかく急いでほしい。こども園で 0 歳児の保育をしていない園がなぜあるのかとも単純に思いました。

私は湯原在住ですが、旧湯原庁舎を取り壊して、そこを駐車場にして、ふれあいセンターを市役所の機能が使えるように変えましたが、その予算があったら、子どもたちのことに使うこともできたのではとも考えてしまった。

(庄司委員)

私は落合から来ていますが、今回民営が入ってこられるということで、公立の園の久世の草加部とか、こども園とか保育園とかあるのを一つにしてという考え方はあるのでしょうか。

それと、北町公園に民営が入ってくるのは、いきいきサロンもあり、保育園もあるのに少しびっくりしました。そうしたら、いきいきサロンとかもなくなるのかなと。これらをひとつにするのかなとも思いました。

(事務局 行田課長)

市として一つにするという考えは持っておりません。一つにするが良いのか、老朽化のとこだけを考えたら良いのか、例えば、草加部などは小規模であり、そういった園をどう考えていくのか、昨年度、答申書には老朽化が進んでいる久世第二保育園や草加部幼稚園などの少人数園のあり方についても検討されたいということも書かれています。こういったことも参考にしながら、老朽化のとこだけなのか、小規模園のことも含めてどう考えるのかなどはこれからの検討と思っており、ひとつにまとめるということは今は考えていません。久世地域のいろいろな課題がある中で、具体的なことに踏み込んでいけないので、具体的な議論をし、予算計上などにつながるような、意見を聞かせていただく場にしたいと考えています。

(佐藤会長)

昨年度の会議の時に、久世地域のことを解決された後は、真庭市全体のことを検討するよという話だったと思う。この場で、様々な意見を出していただいて、それを市の方で検討し、実現に繋げていくというように進めていくことでよろしいですか。

私から1点、自園調理の園とそうでない園とで格差はあるのでしょうか。

(事務局 行田課長)

久世地域では、米来、久世こども園と草加部は配食を受けているが、他の園でも配食を受けている園が若干あります。ただ、この3園は学校施設の共同調理場から配送してもらっています。園児と小学生を考えたときに、不満を言うわけではないが、理想を言えば、園専用の方が良いとは思っています。以前は、久世こども園にも自園調理ができる施設を整備するという話もあったが実現には至っておらず、米来こども園は立地を考えた場合、配食を受けざるを得ない状況であると思います。この場での意見も踏まえ、今後、それらの解消も検討できればと思います。

(佐藤会長)

こども園になると、おやつがありますので、園の再整備をするのであれば、少し大きめの施設を作ってそこからセンター方式で各園に配送するのもひとつの手かなと思います。というような意見を出していきながら、久世地域のみならず真庭全体の幼児教育施設が高まっていければ良いと考えます。

(二若委員)

保育士の人材確保のことで、0～2歳児を受け入れられない理由として、保育士不足があるのかなと思う。保育士さんって結構大変な仕事なのに、賃金が低いと感じる。調理士さんについても同様に思う。この方々の人材確保も考えてほしいと思います。

(事務局 行田課長)

例えば、5歳児なら、園児30人に対して保育士が1人でいいが、0歳児を受け持つには、園児3人に対して保育士が1人必要で、低年齢児は、1人あたりが受け持つことができる人数が少なく、同じ人数を見るのにも、年齢によって保育士の必要な数が異なります。そういったことから人の確保は難しい課題となっています。賃金の問題については、真庭市の職員として給与が決められているので、我々の範疇を超えてしまいましたが、今後、人材確保をしようと思えば、真庭市以外との差別化を図るためにはそういった話が出るのはもったもなことだと思えます。働く条件をできるだけ良くして、人材確保ができて、受け皿の充実が図れて、課題が解決できればと思います。賃金の話は内部の話になりますが、声を上げていきたいと思えます。

(小谷委員)

平日が休みで子どもを園に連れて行った母親に、「今日はお休みですか、お休みだったらお子さんみてあげられたらどうですか」と言われた方がいたと聞いた。保育士の気持ちも分かるし、休日に子どもを預けて自由になる時間が欲しいという母親の気持ちもよく分かります。ただ、観光業に勤務する母親からすればきつい言葉。現場の声として実際あるので、難しいと思うが人員確保も考えてほしいと思えます。

(事務局 行田課長)

園全体に、保護者の皆様に納得していただけるような園運営ができるように参考とさせていただきます。人員確保についていえば、臨時的に携わってもらっている職員には、休暇の扱いなど少しづつ条件をよくしていますが、引き続

き努力していきたいと思います。

(安田委員)

定員を超えてどのくらい希望があるのか。児童クラブによっては、高学年から断っているが、待機児童などどうなっているのでしょうか。

(事務局 行田課長)

新しい園や、久世、落合の一部の園などは実際にニーズが高い現状があります。定員を超えていくらでもということではなく、一定のルールがあり、希望のある中で、できるだけ要望に応えたいというのもあり、認められるルールの中では定員を上回っている園もあります。毎月状況が変わっていて、出産後、仕事に復帰したい人の相談も月によって違いがあり、時期によって0の時期もありますが、待機児童0ということではなく、その大半は0~2歳です。実際今年度4月は0でしたが、5月以降ぼつぼつと増えている状況があります。待機という捉え方も、いろいろな状況がありまして、一概には言えませんが、現状として待機は0ではなく、その大半は0~2歳児が多い状況です。

(江口委員)

部長としての発言になるが、これ以上先送りできないと思っており、早急に結論を出したい。これまでは、市の中で、そこがなかなか十分ではなかったところなので、なるべく優先順位をあげて訴えていきたいと思います。皆さんからのこうした厳しい声も、応援に変えて、実現に結びつけていきたいと思えます。人材確保についても、深刻だと感じています。保育士もさることながら保育士以外、一般事務職を含めても、非常に集まりにくい状況だと感じており、これは民間企業についても同様で、人材確保はほかの地域とも競争になってくると思っています。真庭市を活力ある社会に維持していき、充実した子育て環境を実現していくためにも皆さんからのご意見をいただきながら、早急に実行に移せるようにしたい。

(佐藤会長)

今回いただいた意見は、次回も引き続き、議論を深めていきたいと思えます。加えて真庭全体の議論についても深めていきたいと思えます。

活発な意見ありがとうございました。

それでは、事務局にお返しします。

7 その他

(事務局 行田課長)

活発なご意見をありがとうございました。次回以降も引き続きよろしくお願いいいたします。

その他としまして、事務局より2点連絡事項がございますので、担当者よりご説明させていただきます。

(1) 真庭市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

(事務局 硯参事)

令和2年から6年までの5年間の計画を作成しているが、令和4年度がその中間の年になり、量の見込に修正が必要な場合など、見直しを行うことになっている。その場合は、ご協力をお願いしたい。

(2) 今後の進め方について

(事務局 硯参事)

年度末までに今回を含めて3回～4回程度の開催を予定しており、ご協力をお願いしたい。

8 閉会

(事務局 行田課長)

佐藤会長、委員の皆様ありがとうございました。

閉会にあたりまして本来なら杉本副会長よりご挨拶をいただくところですが、本日ご欠席されていますので、佐藤会長よりご挨拶をお願いいたします。

(佐藤会長)

長時間にわたり、ありがとうございます。子どもが真ん中という政策を打ち出しているが、それができているのかどうか。例えば、総社市、明石市住民の皆さんがどれだけ熱い声を市に届け得るか、そういったことも大事だと思います。そういう意味でこのような会議を有効に使っていただいて真庭市の子ども子育てのために実のある会議にしていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

(事務局 行田課長)

以上をもちまして、令和4年度第1回真庭市子ども・子育て会議を閉会いたします。長時間にわたりありがとうございました。お気を付けてお帰りください。